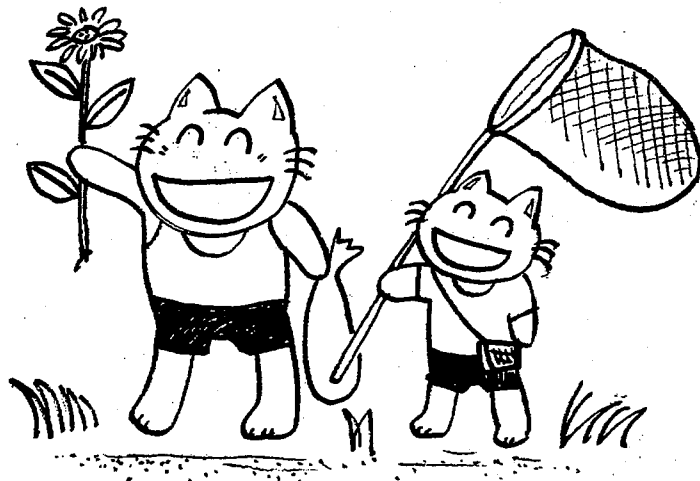


改訂版

# 標本のつくり方

海藻押し葉標本編



市立市川自然博物館

はじめに

この冊子は、自然博物館で実際に調査や研究のために作成する動植物の標本の作り方の基本をご紹介しますものです。

きちんと作成され、記録を記載された標本は、地域の自然の記録として貴重な資料になります。

標本を作製するためには、採集してから、完成するまでに何日かの時間が必要です。

特に植物や海藻の押し葉標本や昆虫の標本は、きちんとした手順と処理、毎日の手入れを行って、ようやく完成します。

こうしてしっかりと作成された標本は、長期間の保存にも耐え、地域の自然の記録として活用することができます。

## 標本完成までの目安

海藻押し葉標本 2週間から3週間



# 海藻標本のつくり方

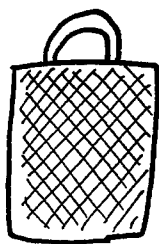


## 1. 採集

◎海藻の種類が多く、種の特徴がよく現われる（見分けやすい）時期は、12～7月です。夏場は枯れてしまうものが多いのですが、夏でも、海水浴のついでにホンダワラの仲間やマクサ（テングサ）、石灰藻の仲間などいろいろ採集できるので、標本にしてみましょう。うまくできたら、下に示したような海藻採集に適した時期にも行ってみましょう。

採集に適している時期：日中に潮が最も引く5～7月の大潮の日前後  
 （つり具店で『潮位表』を手に入れると便利）  
 採集に適している時間：干潮時刻の2時間前～1時間後くらい  
 採集に適している場所：岩のよく発達した磯の潮間帯

### ●必要な道具



網や布でできた大きめの袋

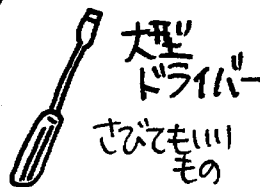


ビニール袋（たくさん）

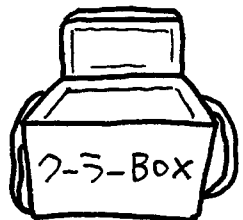
チャック付がべんり。いろいろな大きさのものがあるとよい。



ビニールシート



大型ドライバー  
さびてもいいもの



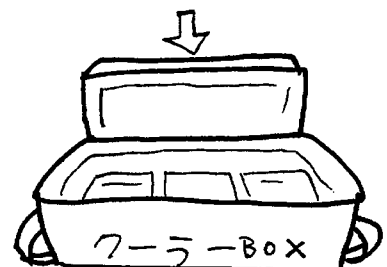
### ●手順



③ビニール袋に小分けする（海水は入れない）。

①採集した海藻は、大きめの布袋や網袋に入れる。  
 （バケツでも良いが、流されやすい）

②採集がおわったらビニールシートの上に海藻をひろげてだいたい種類ごとにより分ける。



④クーラーボックスに入れて持ち帰る。

◎砂浜などに打ち上げられた海藻を採集するのもよいでしょう。ただし、体の一部分しかなかったり、枯死して色が抜けているものは避けましょう。乾いていても、海水につけてうまく元にもどせば、押し葉標本をつくることができます（乾燥しているものは、そのまま持ち帰ります）。

●採集するときの注意

- ・磯はたいへんすべりやすくけがをしやすいため、採集に適した服装をしましょう。（貝の“採集のときの服装”を参考にしてください）（→13頁参照）
- ・海藻はできるだけ根元から体全体をとりましょう。岩にくっついている時は、ドライバーなどで、ていねいにそぎとります。
- ・禁漁区に指定されている海岸では、採集してはいけません。また、ヒジキやテングサ、ワカメ、コンブなどの有用海藻を採集して漁業を営んでいる地域では、むやみに採ってはいけません。
- ・採集した海藻は、できるだけはやく標本にしましょう。すぐに溶けてしまいます。

2. つくり方

●用意するもの



●手順 台所やお風呂場など、水まわりのよい場所で行いましょう。



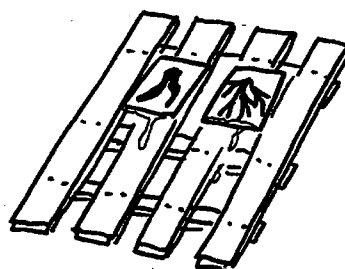
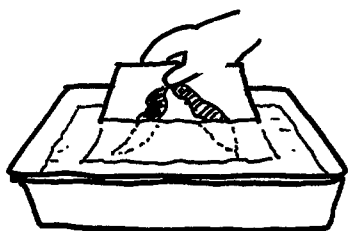
・ピセットや筆でゴミをとりのおいたり、タヌキの枝をとりのおいたりする。水は1回ごとにとりかえる。

①バット（洗面器）に水道水を入れ、その中に柔らかそうな海藻から2～3種類ずつ選んでひたす（塩抜き）。（一般的には、紅藻類→褐藻類→緑藻類の順）

◎水につける時間は、海藻の種類によって異なる。下の図を目安にする。

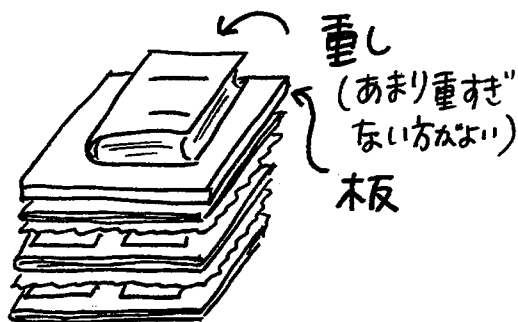
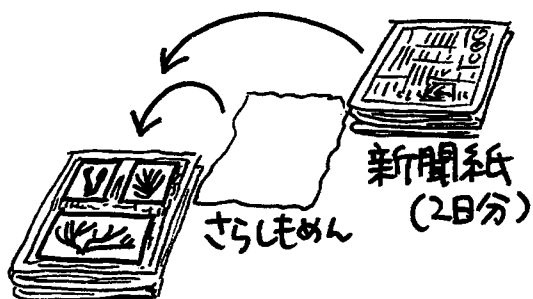


②もう一つのバットにも水道水を入れ、塩抜きした海藻を移してきれいに整える。



③海藻の大きさにあった台紙を選び、バットの中に沈め、海藻を台紙の上のせてゆっくりと引き上げる。

④水切り板を斜めに立てかけ、その上に標本をならべて余分な水を切る。



⑤あらかた水がきれいなら、新聞紙の上に並べる。上にさらしもめんをかけ、その上に新聞紙、標本、さらしもめんの順に積み重ねる。

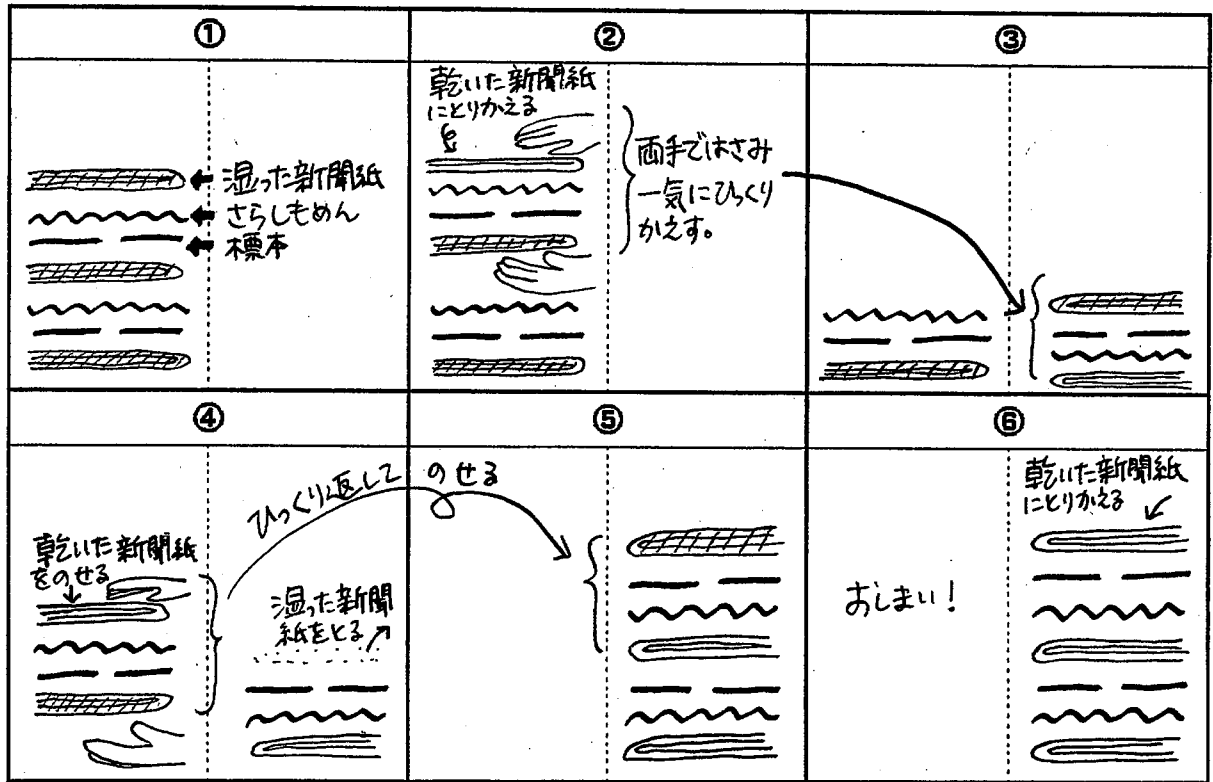
⑥全て終わったら、最後に新聞紙をのせた上に、押し板をのせ、重しをのせる。

注意！さらしもめんをかけないと、海藻が新聞紙にくっついてしまいます。

※石灰藻の仲間は、塩抜きしたあとそのまま陰干しし、あとで台紙に貼る。

●新聞紙のとりかえ方

- ・作った日と翌日は1日に2回、その後は1日1回新聞紙をとりかえる。海藻のようすを見て、十分乾燥していたらできあがり。小さいもので3~4日、大きいものでも1週間くらいでできる。



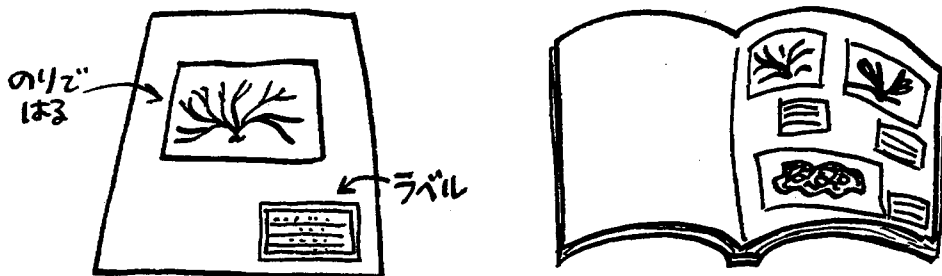
**注意!** 十分塩抜きができていないと、塩が白く浮き出てくる。保存したとき水分を集めて、かびの原因になるので、水でぬらした筆などでていねいに溶かしてふきとり、再び新聞紙にはさんで乾かします。

●台紙につかない海藻をはりつける

- ・台紙にくっつかなかった海藻は、木工用ボンドを数カ所海藻につけて、台紙に貼る。台紙につくつかないかは種を同定するときの特徴の一つになるので、全面にべったりのり付けしてはいけない。

●整理

- ・できあがった標本は、大きさの揃ったぶ厚い画用紙に貼りつけるか、スクラップブックやスケッチブック等に貼って整理する。
- ・植物と同様に、ラベルをつける



3. 保管

- ・紙箱の中に防虫剤を入れ、冷暗所で保存するか、風通しのよい直射日光のあたらない書棚に防虫剤をはさんで保管するとよい。

(参考文献: 「海藻」千原光雄監修 学研)

改訂版 標本のつくり方

発行 平成6年6月17日

第3刷発行 平成14年7月7日

編集 市立市川自然博物館